

【ホームページ掲載用】

令和4年度 学校評価アンケート集計結果と分析

《回答者》

生徒 1年 111名 2年 78名 3年 93名 計 282/355名 教職員 25名
保護者 1年 81名 2年 69名 3年 88名 計 238/323家庭 *保護者は家庭数

《回答方法 4件法》 A そう思う B ややそう思う C ややそう思わない D そう思わない

《分析の注意事項》 母集団数が異なるので割合(%)を比較しても傾向をとらえることはできない。

生徒・保護者それぞれ一人が全体に占める割合は約0.4%に対して教職員は一人あたり4%である。割合で比較した場合、教職員一人が保護者・生徒それぞれ10名程度の回答と同等の影響を与えるため妥当性に欠ける。割合の比較ではなく、傾向(回答の山)や昨年度との比較(誤差があるので±5%以上の変化があったときに「変化があった」と判断する)によって統計上の妥当性を担保する。

《項目ごとの結果》 網掛けは-5%以上の変化

1. 学校は、通信などで、学校や生徒の様子をわかりやすく伝えている。

	A	B	C	D	【保護者の意見】 特になし
生徒	43.6	47.5	6.7	2.1	
保護者	37.2	44.4	14.2	4.2	
教職員	70.0	25.0	5.0	0.0	

(%)

【今後の方向性】

様々な要因が関係しているので断定することはできないものの、学年が上がるにつれて保護者の否定的回答の割合は下がっています。中学校生活の先の見通しをつけにくい1年生では、不安軽減のためにより丁寧な情報発信が必要です。

2. 授業参観や行事など、学校を開放して生徒の様子を見る機会を設けている。

	A	B	C	D	【保護者の意見】 学校行事の参加は2名にしてほしい。 学校の雰囲気を知ることができてよかった。
生徒	35.8	48.9	12.8	2.5	
保護者	37.7	46.9	12.1	3.3	
教職員	45.0	45.0	10.0	0.0	

(%)

【今後の方向性】

保護者の人数制限については、社会状況を踏まえて慎重に検討していきます。

3. 先生は、教え方を工夫してわかりやすい授業を行っている。

	A	B	C	D
生徒	47.5	41.1	8.9	2.5
保護者	18.4	54.0	25.1	2.5
教職員	40.0	55.0	5.0	0.0

(%)

【保護者の意見】

- ・欠席時の丁寧なフォローがほしい。
- ・言葉遣いに気を付けてほしい。
- ・教科の先生によって教え方にばらつきがある。
- ・分布をみているとテストの内容に問題があるのではないかと感じる。
- ・生徒の匿名アンケートを行うなどして、授業に対する率直な意見を求めてそれを反映してほしい。
- ・テストで得点の取れていない子どもが多いのは、指導が不十分だからではないか。
- ・オンラインの授業も選択できれば、平等に学習の機会を得られるのではないか。
- ・感染・濃厚接触時にタブレットがあまり役に立っていない。
- ・宿題が多い。出すタイミングがおかしい。テスト前に時間のかかる宿題はさけてほしい。

【今後の方向性】

生徒の資質・能力を伸ばすための授業について研修を深め、「目標と指導と評価」が一体化した授業改善を進めます。定期テストの得点分布を教員の反省材料にし、生徒のつまずきをみとり、その解消を図ることができる指導改善を進めます。

4. 学校は、基礎学力の定着に向けた取り組みを行っている。

	A	B	C	D
生徒	45.0	45.7	6.4	2.8
保護者	15.9	51.5	27.2	5.4
教職員	35.0	55.0	10.0	0.0

(%)

【保護者の意見】

- ・宿題がない理由は？学習習慣をつける取り組みをしていただけていません。義務教育期間に必要な課題は、きちんとこなさってほしいです。
- ・学力低下に大きな危機感を感じている。学年の雰囲気を感じている。
- ・ばらつきが激しい。もっと得点のとれない子どもによりそってほしい。義務教育だからこそ。
- ・全体的な底上げをしてほしい。学力定着の取り組みが不足しているのではないか。
- ・濃厚接触者には、Zoom 授業をすべき。
- ・さらっと内容を流して個人任せにしている気がする。反復練習の機会をつくるなど、わからないままの生徒を何とかしてもらえればありがたい。

【今後の方向性】

生徒の資質・能力を伸ばすための授業について研修を深め、「目標と指導と評価」が一体化した授業改善を進めます。定期テストの得点分布を教員の反省材料にし、生徒のつまずきをみとり、その解消を図ることができる指導改善を進めます。

オンライン授業については、設備面の課題もあるので学校単独では実現が難しい面もあります。

5. 学校は、命の大切さや思いやりの心など、豊かな心を育てようとしている。

	A	B	C	D
生徒	50.0	40.4	6.7	2.8
保護者	20.9	56.9	18.8	3.3
教職員	65.0	35.0	5.0	0.0

【保護者の意見】
特になし。

(%)

【今後の方向性】

豊かな心の育成は、学校教育の責務です。否定的評価が増えている原因を分析し、学校に対する保護者の不安感を軽減する必要があります。他の設問と関連付け、教職員がより良い指導の具体を共通理解する必要があります。

6. 生徒は規律正しく、落ち着いた学校生活を送っている。

	A	B	C	D
生徒	27.7	49.3	19.5	3.5
保護者	30.1	51.0	14.2	4.6
教職員	25.0	75.0	0.0	0.0

(%)

【保護者の意見】

・授業中うるさくて勉強ができない、聞こえないと子どもが言っています。

【今後の方向性】

生徒がどのような規律の正しさや落ち着きを求めているかを丁寧に聞き取り、教職員がチームとなって、生徒の安心感を高めていきます。その場ですぐに行う指導（見逃しゼロ）、教職員と生徒の信頼関係に基づく協働的な学校生活の展開を考えていきます。

7. 先生は、生徒のことをよく理解して、適時・適切に指導している。

	A	B	C	D
生徒	35.8	47.9	12.8	3.5
保護者	22.2	49.4	21.8	6.7
教職員	25.0	70.0	5.0	0.0

(%)

【保護者の意見】

・生徒によって担任が、優遇や態度が違うと聞きました。それは改善してほしい。
・生徒の中で暴言が飛び交っていると聞きました。きちんと指導していただきたい。

【今後の方向性】

教職員の生徒への言動、保護者との連携方法を見直していきます。研修等を実施し、教職員の資質向上を図っていきます。また、教職員の指導に対して生徒や保護者がわかってもらえないではなく、教職員の指導が伝わっていないと謙虚に受け止め、より丁寧な指導を進めます。

8. いじめや暴力がなく、生徒は安心して学校生活を送っている。

	A	B	C	D
生徒	44.3	41.1	11.3	3.2
保護者	28.0	49.4	15.5	7.1
教職員	15.0	70.0	15.0	0.0

(%)

【保護者の意見】

- ・暴言を吐く生徒が増えていると聞きました。常に警戒姿勢であたってほしい。
- ・1年生がひどいと聞いた。どのような対応をしているのか。

【今後の方向性】

「いじめ見逃しゼロ」の意識で担当する学年をこえて教職員全体でいじめ問題に取り組んでいきます。いじめ問題については、現在もいじめ対応チームでその解決にあたっています。今後は、対応にあたるだけでなく、いじめ対応チームとはどのような組織で、どのような効果があるかを生徒と保護者により一層周知し、信頼感と安心感の醸成につなげていきます。

いじめ問題に取り組む姿勢を保護者に対して示し、家庭と学校で子どもを守る連携体制を構築していきます。

9. 生徒の個性を大切に、生徒一人ひとりに活躍の機会と場がある。

	A	B	C	D
生徒	36.2	45.4	13.5	5.0
保護者	19.2	56.9	16.3	7.5
教職員	35.0	45.0	20.0	0.0

(%)

【保護者の意見】

- ・潜在意識の中で偏見をもって生徒を見ておられると感じることがある。

【今後の方向性】

活躍の機会と場は教職員から与えられるものではなく、生徒が発見するものであるという考え方もあります。ただし、生徒が個性を大切にされていると感じられる学校であることは必要です。

10. 教育活動や学校行事などの時期や内容は適切である。

	A	B	C	D
生徒	53.2	38.7	5.7	2.5
保護者	33.9	52.7	9.6	3.8
教職員	70.0	25.0	5.0	0.0

(%)

【保護者の意見】

- ・1学期の中間テストがないのはなぜか。
- ・学習に対する説明がなされていない。

【今後の方向性】

より丁寧な情報発信、説明をすることで理解を求めてまいります。

11. 生徒の部活動は、楽しく充実している。

	A	B	C	D
生徒	57.1	32.3	7.1	3.5
保護者	31.8	42.7	17.2	8.4
教職員	35.0	55.0	10.0	0.0

(%)

【保護者の意見】

- ・大会の内容が伝わらない。連絡が不十分。なぜライデンメールを使わないのか。
- ・顧問の先生がしっかりしていないのでチームが崩れている気がする。
- ・部活にあわせた顧問をつけてほしい。

【今後の方向性】

連絡体制をはじめとする丁寧な対応は、学校全体で今一度見直しと周知徹底を図ります。
顧問については、部活動指導を念頭に置いた人事配置ではありませんので限界があります。

12. 学校は、安全指導や健康管理に努め、安全で安心した学校生活を送れている。

	A	B	C	D
生徒	51.8	43.3	3.2	1.8
保護者	34.7	53.6	9.6	2.1
教職員	65.0	35.0	0.0	0.0

(%)

【保護者の意見】

特になし

【今後の方向性】

これまで同様、安全で安心な学校生活の実現を図るための取り組みを進めます。

13. 施設・設備の整備や環境美化に努めていて、快適な学校生活を送れている。

	A	B	C	D
生徒	50.7	39.0	7.8	2.5
保護者	35.1	53.1	9.6	2.1
教職員	60.0	40.0	0.0	0.0

(%)

【保護者の意見】

特になし

【今後の方向性】

老朽化している設備もあることから、学校ではできない整備については市教委に依頼します。

14. 生徒は、楽しく充実した学校生活を送っている。

	A	B	C	D
生徒	43.6	45.7	7.8	2.8
保護者	32.2	49.4	12.1	6.3
教職員	25.0	75.0	0.0	0.0

(%)

【保護者の意見】

特になし

【今後の方向性】

6. 落ち着いた生活、8. いじめや暴力がないなどの回答と相関があると考えられます。まず、生徒の安心と安全を守る取り組みを1年生中心に進めていき改善を図ります。

15. 学校の教育活動は、全体的に見て満足できる状態である。

	A	B	C	D
生徒	39.0	50.0	8.9	2.1
保護者	22.6	58.6	11.7	7.1
教職員	50.0	50.0	0.0	0.0

(%)

【保護者の意見】

特になし

【今後の方向性】

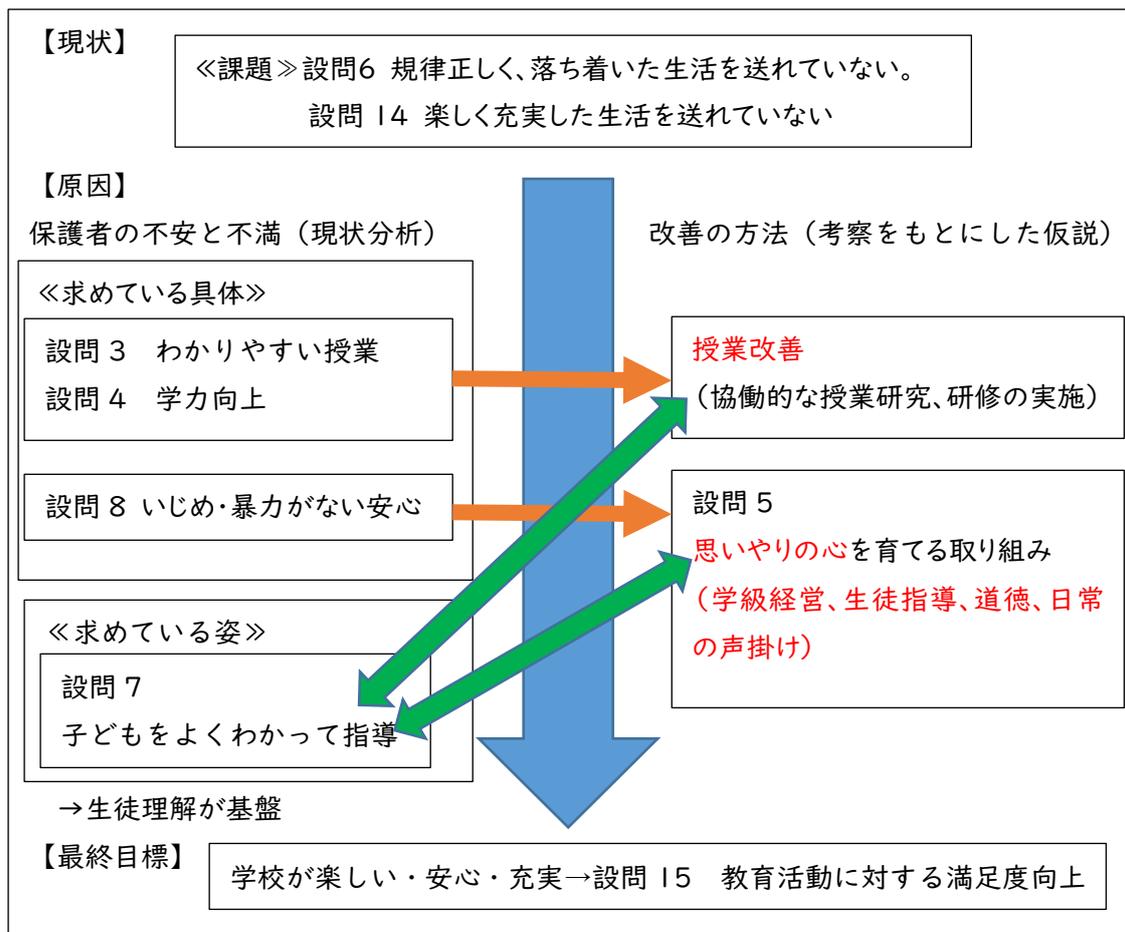
本設問は、1～14の設問をまとめた内容になっているため、前述の方向性をふまえて、満足度をあげていきます。

総括

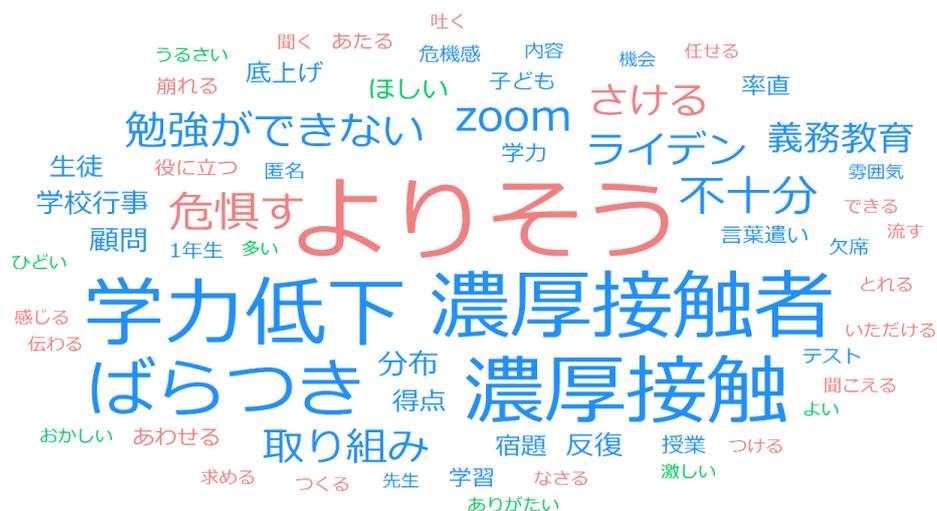
生徒の約9割(89%)、保護者の約8割(81.2%)が学校の教育活動に対する満足度について肯定的に評価しています。現在進めている教育活動の方向性について、おおむね肯定的評価がなされたと考えることができます。

しかし、狭間中学校の教育活動を充実したものにするためには、さらなる改善が必要です。経年で比較すると、今年度は保護者については、設問3～8、14、15の否定的評価が増加、生徒については、設問6の否定的評価が増加しています。設問6「生徒は規則正しく、落ち着いた学校生活を送っている」点については、学校が保護者、生徒の期待にこたえられていない現状があります。これらの否定的評価については相関関係があると考えられます。その関係性を整理し、因果関係を導き出すことで根本的な改善のための有効な手立てを考えていきます。

保護者の否定的評価の関係性を整理すると、次の図のようになります。



さらに保護者の自由記述を AI によるテキストマイニング分析をした結果は、次のとおりになります



UserLocal AIテキストマイニング

テキストマイニングは、言葉の発生頻度、関係性を直感的に表現したもので、保護者の自由記述に込められている思いや願いの傾向を分析的に把握することができます。

2つの図をもとに考察すると、改善の方向性が明らかになります。生徒と保護者の教育活動に対する満足度の向上のために、これからの狭間中学校が取り組むべき方向性は次の2点です。

①生徒理解に基づく**授業改善**

②生徒理解に基づく**心の教育の推進**

そして、①と②を進めるにあたっては、テキストマイニングの中心にみられる生徒によりそってほしいという保護者の願いをもとに、生徒に「よりそう」授業改善、生徒に「よりそう」心の教育を教職員がチームとなって進めます。

具体的には、教職員が「わかる授業」の実現のために絶えず授業改善を図ること、安心・安全を感じられる学校生活をデザインすることに努めます。

①授業改善については、教職員相互に、また三田市教育委員会教育研修所と連携しながら次の視点で研究を進めていきます。

- ・生徒が主体的に深く学ぶための授業構成
- ・指導と評価が一体化した授業と生徒を伸ばす評価のあり方
- ・授業における効果的なICT活用のあり方

②心の教育の推進については、道徳教育の充実はもちろんのこと、次の取組を進めていきます。

- ・多くの教職員で見守る学級経営体制の構築
- ・外部人材を活用した授業、研修の充実

特に、外部人材の活用についてはこれまで継続的に取り組み、成果を蓄積してきている「命を考える授業」「ストレスマネジメント授業」「情報モラル授業」等をさらに充実させます。また、「Hyper-QU」研修などを通して教職員の生徒対応力の向上を図ります。

以上の取り組みをとおして、個々の教職員自身がこれまでの生徒への声掛けや理解のあり方について内省し、生徒が安心して通える学校をつくるために自己改革も進めます。

約9割の生徒、約8割の保護者が学校生活に対して肯定的評価をしていることに満足せず、すべての生徒が通いたくなる学校、すべての保護者が通わせたい学校を「丁寧でやさしさのある」指導で目指していきます。